



樹妙だより

No.185 2020/12



3年生球技大会 (11/2)

慈 悲 喜 捨

毎年、年末になると「歳末たすけあい運動」が行われます。本校でも、赤い羽根共同募金や、インターアクトクラブが「歳末たすけあい募金」を行うなどして協力しています。この運動は、国民の助け合いの精神を元に、支援を必要とする人が、新たな年を迎える時期に安心して生活できるようにすることを目的としています。

運動の始まりは、日本が第二次世界大戦に敗戦した頃に溯（さかのぼ）ります。国を復興するため、厚生労働省が「国民が助け合うことによって精神の振興がなされ、国家再建の基盤をもたらし」と提言して「国民たすけあい共同募金」として始まり、それから約70年間に亘って活動しています。また、その他にも「お年玉つき郵便葉書」、「緑の募金」「あゆみの箱」などがあって、日本国民の募金参加率は9割に及ぶということです。

募金は、震災の被災者や福祉支援を必要とする人たちへの、就労や学習、生活支援などに使われています。募金の使途は、あまり知

られていないようですが、災害地への配食や、炊き出し、年末年始の買い物の移動支援、大掃除、ふすまや障子の張り替え、雪下ろしなど様々な用途があります。そして、支援対象者や支援団体などを励ますためのイベント、障害者、介護者等が利用する施設なども支援の対象となっていて、たくさんの人の生活が支えられています。

戦後の日本において、国民が支え合うことが国を再建する基になる、という政府の方針により、日本は復興を果たして世界有数の先進国となりました。それは、幸福は、分かちあうことによって、種まきのように芽が出て増えていくということを、戦後の復興期をたくましく生きていた先人たちが、私たちに示してくれたということなのです。

今年も師走の月となりました。健康に留意して年の瀬を過ごすし、支え合うことの大切さをあらためて認識して、心豊かに良い年を迎えるようにしましょう。

教頭 金安伸一



樹徳高等学校長

野口秀樹

はやくも12月、間もなく今年が終わってしまいます。1月に新型コロナウイルス騒ぎが起こり、日本中、世界中が影響を受けました。

そして、未だに先が見えない状況です。第3波がやってくるというような報道もありますが、早く安心した学校生活、日常生活に戻りたいものであります。

この間は、学校でも行事がことごとく中止となり、生徒達のストレスも大きいので、豊かな心が育まれているのかどうか心配です。

開催を楽しみにしていた東京オリンピック・パラリンピック、これも延期となってしまいました。インバウンドを見込んだ関係者達の経済的損失は膨大なものであります。私の知りあいの企業でも、新型コロナの影響を受け、会社の運営に大きな影響が出ています。これは市民生活にも直結しております。

テレビのニュースでしばしば流される、あおり運転の映像は、皆がイライラしているのでありましょくか、本当に乱暴な言葉が映像の中を飛び交っています。

このような時はどうしたらよいか、難しいことですが、自分の使う言葉を変えてみる。誰もが優しい言葉を求めているのかも知れません。

仏教の教えの中には、子供でも理解できるやさしい物語があります。それは『ジャータカ物語』といいまして、輪廻を繰り返すお釈迦様の生前物語で574のお話が収められています。

この物語の成立は紀元前3世紀頃、その後世界各国へ伝えられ『イソップ』や『アラビアン・ナイト』などにも影響を与えたと言われています。

その中で「牛ビサーラの恩返し」を紹介致します。

お釈迦さまがお釈迦さまとして誕生する前に、仔牛になってこの世に生まれます。若く貧しい農夫がこの仔牛を手に入れ、ビサーラ（喜び）と名付けます。ビサーラは野山を自

由に駆け回り、たくましく力強い牛に成長します。そして若者だった農夫は貧しいまま年老いていったのです。

ある日、ビサーラは主人に恩返しをしようと、こう言いました。

「私をこんなに立派に育ててくれてありがとうございます。何かお礼がしたいのです。欲しいものはありますか」

「一生懸命働いてやっと貯めたお金が1000キン、できたらこれを倍にして欲しいのだが」

これを承知したビサーラは、村の長者の家に行き力比べの賭けをするように勧めます。「荷物を満載した百台の車を一列につないで私が引きます。これが動けば1000キン。きっとあなたを勝たせます」

農夫はさっそくビサーラを連れて長者の家に行き、うまく長者をその気にさせて賭けを挑ませた。長者はすぐに使用人達を使って木材や石を満載した重たそうな百台の車を門前に用意します。

「さあ 始めるぞ！」農夫は荷台の先につないだビサーラにビシと鞭を当てた。「そら引け、畜生め！」と叫んだ。ビサーラは動かなかった。

「コンチクショウ、どうした」鞭はいくつも飛んだが、それでもビサーラは動かず、賭に負けて全財産をとられてしまいます。

家路につきながら農夫はどうしてだましたのか怒り出します。

「あなたは私を畜生と呼ばれた。そんな蔑んだ呼び方で私が動く気になれますか？」農夫はうなだれた。

「もう一度長者の所へ行きましょう。200台の車を引かせて2000キンの賭けをするのです」

2000キンを賭けた200台の荷車の先にビサーラはいた。農夫はビサーラの首をやさしくなでて「ご苦労だな、力を出しておくれ。頼んだよ」

ビサーラは息を止め、満身の力を込めて引いた。ギシッという音とともに200台の車は動き始めた。

お釈迦さまはこう語り終えてから「言葉は愛を伝えるためにある」と一言付け加えられて、このビサーラは前の世の私であったと言われた。合掌

「国語の成績が伸びない」「国語の勉強法が分からない」「模試での、出来、不出来の差が大きい」などの声をよく耳にする。そういう声は、昔からあり、特に現代文の読解問題が対象になっている場合が多い。「これだけで解ける現代文」「現代文一読解の方程式」などという受験参考書のタイトルにも、受験生たちの悩みが投影されているように感じる。

なぜ、そういう声が数多く出てくるのか。結論的に言えば、その理由の筆頭は「客観性の乏しさ」だろう。言葉は、数字や物のような明確な客観性を持たない。たとえば「真面目」という言葉を聞いて、皆さんはどんな概念やイメージを思い浮かべるだろうか。個々の回答を細かく見れば、共通部分はあるにせよ、百人百様という結果になるはずだ。そんな言葉の集合体が文章なのである。

法令の条文を作成する際、文言の選択や表現の仕方については、きわめて慎重な検討が行われる。法令の持つ力の大きさを考えれば当然のことだろう。しかし、法令に関しては、反対解釈、縮小解釈、拡張解釈などの用語がある。そのことが示しているように、ほとんどの場合、解釈の相違という問題を回避することはできず、条文そのものが法廷闘争に持ち込まれることも少なくない。

私大の名門であるK大が、入試科目から国語を除外して半世紀近くが経つ。国語の問題の客観性を疑問視し、委員会を設けて検討を重ねた結果の除外だという。これに対して、K大と双璧をなすW大の入試科目には国語があり、難問として知られている。試験が終わると、すぐに大手予備校が模範解答を発表するが、各予備校の解答に違いが認められることがある。

こんなテレビドラマがあった。中学校の教室で、国語の女性教師が問題の正解を生徒たちに伝え、解説をしている。一人の男子が手を挙げた。ある問題の正解について疑問を持ったからだ。教師と生徒の押し問答が続く。授業終了のチャイムが鳴った。「〇〇君、そんなことを言っていると〇〇高校には受かり

ませんよ」。女性教師は、強い口調で言い捨てると教室を出て行った。題材は松尾芭蕉の「荒海や佐渡に横たふ天の川」である。十七文字の韻文読み手に与える印象を問う選択問題だった。客観性が問題になる危険性がきわめて高い。その条件が揃っているからだ。読解や鑑賞の設問には「最も適当なもの」という安全装置が取り付けられてはいるが、それでは正解を保全しきれない場合がある。

小説や詩歌は芸術である。だから、それを題材にすることは、すべての受験生に一枚の絵画を見せて、理解し、鑑賞せよ、と言っているのと同様だということになる。個性と感性の産物である芸術を、理解し、鑑賞するための客観的な手法などあるのだろうか。因みに国語の成績の良い生徒が、特に国語の勉強に時間を割割いているわけではない。

国語のことを問題にしていると、英語も同じ言葉ではないか、と言う人が出てくるだろう。しかし、英語の問題は国語に比べて客観性が高い。英語は語学として扱われているからである。だから、伸長度には差が出るは仕方のないことだが、努力を継続することで得点力が向上していく。それはデータによって裏付けられていることだ。

改めてここに記すまでもなく、言葉はきわめて重要なものである。言葉なくして社会は成り立たない。しかし、入試科目における国語では、客観性の乏しさが問題になる可能性が高くなる。また、客観性が乏しいということは、学習の対象としてはきわめて難物だということになる。費用対効果という点で比較すれば、五教科の中では最下位に甘んじざるを得ないだろう。

紙面の都合もあり、いささか乱暴な展開になってしまったが、いよいよ大学入試の本番が近づいてきた。合否は各科目の合計点で決定されるのが一般的だ。何を、どうしたら、より確実に合計点を上げられるか。それぞれの状況に応じた選択で、最終盤の追い込みに全力を傾注してほしい。

高校生活最後の球技大会で、いざ勝負！

令和2年11月2日、第3学年の球技大会が実施されました。コロナ禍である現状において、各種学校行事は軒並み中止となるなか、種目はバレーボール1種目とし、学年、及びコース毎に実施日を分けて、かつ応援も試合をしているクラスのみ、という極めて限られた条件の下での開催となりました。

コロナ禍は、私たちの日常生活に大打撃を与え続けていますが、一面では自他を思い、共に生きる命の尊さを考えさせてもくれます。

●総合コース

優勝 3年J2組

準優勝 3年J6組

3位 3年J1組

●進学コース（一貫校含）

優勝 3年S・SS組

準優勝 3年K2組

3位 3年K1組





令和3年度 樹徳高等学校生徒募集要項

～ インターネット出願導入いたしました ～

募集定員と 募集コース	男女計 460名	総合コース 大学進学コース 特別大学進学コース スーパーサイエンスコース	J組 S組 K組 SS組	【出願資格】 ①令和3年3月 中学校卒業見込みの者 ②本校の教育方針に賛 同できる者
----------------	-------------	---	-----------------------	--

■入試日程

入学試験区分	推薦入学試験	学業奨学生 入学試験	一般入学試験	ステップアップ 入学試験
募集区分	J組 推薦 S組 推薦 K組 推薦 SS組 推薦 部活動 推薦	併願	単願・併願	単願・併願
インターネット 出願受付期間 (受験生)	令和2年 12月 1日(火)～ 12月14日(月)	令和2年 12月 1日(火)～ 12月14日(月)	令和3年 1月12日(火)～ 1月20日(水)	
出願書類 受付期間 (中学校)	12月11日(金)～ 12月18日(金) 9:00～16:00	12月11日(金)～ 12月18日(金) 9:00～16:00	1月13日(水)～ 1月20日(水) 9:00～16:00	
試験日	令和3年 1月 9日(土)	令和3年 1月 9日(土)	令和3年 1月30日(土)	
合格発表日	1月18日(月)	1月18日(月)	2月12日(金)	
入学手続日	1月23日(土) 9:00開始	3月18日(木) 13:00開始	単願:2月20日(土) 9:00開始 併願:3月18日(木) 13:00開始	
単願切替手続日	—————	1月23日(土) 9:00開始	2月20日(土) 9:00開始	
出願書類	出願票・調査書 中学校長の推薦書	出願票・調査書	出願票・調査書	不要
出願料	15,000円	15,000円	15,000円	無料
備考	推薦(単願)入学を希望する 人の試験です。	他校との併願ができる試験 です。	主に併願者のための 試験ですが、単 願者も受験できま す。	学業奨学生入学 試験の受験者がさ らに上位の合格種 別を目指して再受 験する試験です。
	※入学試験の結果、奨学生となった者には奨学金が給付されます。 (別記合格種別・奨学生種別参照) ※奨学生の更新審査は学期ごとに行われます。 ※感染症対策の影響等により、入試方法等が変更される場合は、在籍中学校への通知、 および本校ホームページ等にてお知らせいたします。			

■試験方法・科目 (各入学試験・各教科とも、100点満点・50分間)

入学試験区分	推薦入学試験	学業奨学生 入学試験	一般入学試験	ステップアップ 入学試験
試験方式	マークシート方式	マークシート方式	記述方式	
試験科目	国・数・英	国・数・英・社・理	国・数・英・社・理	
面接試験	あり	なし	なし	

一貫校 中学校 だより

◆一人ひとりの人権への意識を高めていきましょう

私たちは毎日の生活の中で、「人権」ということばをしばしば目にしたり、聞いたりします。では、「人権」って、一体何なのでしょう？

日本国憲法では、基本的人権が、侵すことのできない永久の権利として保障されています。特に、私たちの生活に関わりの深い権利として、自由に生きる権利（自由権）、差別されない権利（平等権）、人間らしく生きる権利（社会権）が人権として保障され、また、人権を守るために、選挙権や被選挙権等（参政権）や裁判を受ける権利等（請求権）も保障されています。

人が、かけがえのない存在として、自分らしく幸福に生きていくために欠かすことのできない権利が「人権」です。

人は、人として生まれた時から、基本的人権が保障されています。

しかし、現実の社会では、監護者から虐待されて命を落とす子ども、パートナーからの暴力（DV）によって心身に深い傷を負う人、また、高齢者、障害者、同和地区住民、外国人だからということで、いわれのない差別を受けるといった人権侵害が、あとをたちません。また、最近では、インターネットを悪用した人権侵害なども頻発しており、社会の情報化、高齢化、少子化が進む中で、「人権」を大切にすることがますます重要なものになってきています。

私たちの生活には、家庭・地域・職場・学校など、色々な場があり、たくさんの人との交流の中で、その場に応じた適切な判断をすることが求められるようになってきています。その際に、最優先すべきものが「人権」です。誰もが人権への意識を高め、「人権」を尊重するようになれば、豊かで暮らしやすい社会が実現していくのではないのでしょうか。

（校長 澁谷 和郎）

（12月4日～10日は人権週間です）

◆「公」の意識を持とう！ ～ITトラブル防止講話

10月6日、ぐんまセーフティーネット活動委員会の丸山道慶氏より、インターネット、スマートフォン等のIT機器の取扱い方について講話がありました。近年、インターネット等による青少年の被害が増加しています。丸山氏は、ネットに載せることは公の場で発表するのと同じこと、今、この会場で言えないこと見せられないことは載せないようにしましょう、と呼びかけられました。

◆みんなで協力し合えた！ ～球技大会

10月30日（金）、相生グラウンドにて、久しぶりに学校行事が行われました。コロナウィルス感染拡大防止に努めながら、今回は「ダンス」「短距離走」「ドッジボール」「長縄」と様々な分野の運動を行いました。久しぶりの行事に生徒たちは始まる前からわくわく。クラスが協力し合うだけでなく、2年生が1年生を応援するなど、学校全体で盛り上がった楽しい行事となりました。

◆樹徳生が多数受賞！ ～父の日母の日作文

桐生市父母の日大会において、樹徳生の作文が多数受賞しました。日頃思っている、なかなか言えない思いを素直な形で作文にした素晴らしい内容でした。

父の部	最優秀賞	渡辺紗（1－2）
		山田莞（2－1）
		阿部ナオ（3－1）
母の部	最優秀賞	渡辺さくら（2－2）
		土屋美月（3－2）
	優秀賞	上山陽菜（2－2）
		安齊里桜子（3－2）

◆読書に親しむ樹徳生！ ～野間文庫読書推進賞受賞

講談社創立者の野間清治を顕彰する「野間清治顕彰会」が読書推進に功績のあった団体を毎年表彰しており、今年は樹徳中学校の図書委員会が選ばれました。コロナウィルス拡大防止に努めながら、「読書クイズ」など読書推進のために活動したことが認められました。生徒には引き続き読書に親しんでほしいものです。



幼稚園だより

◆「コロナ禍での成長！」

園庭のイチヨウやもみじ、トウカエダが見事に紅葉し、その美しさに子どもたちも感動していましたが、木枯らしで葉っぱがあっという間に飛ばされています。2学期の締めくくりの月、師走に入り、園でも年の瀬の慌たじけなさを感じられるようになりました。行事をたくさん経験した2学期ですが、毎日毎日が成長でした。特に運動会後は、友だちを応援することで、相手もまた自分のことを応援してくれる。そんなお互いの思いやりが育った子どもたちは、みんなで学んだり、協力し合ったり、励まし合ったりするなど、心身ともに大きく成長していることを実感しています。

◆「行事の意味について再確認」

4～5月は、園が登園自粛、学校は休校となり外出を控えるなかで、患者数の増加や、亡くなる方の悲報に触れて過ごす日々で、どうにも答えの出ない、対処のしようのない事態に耐えるしかありませんでした。しかし、いつもと違う「新しい生活様式」の中で、保育者は3密をさけながら新しい思い出作りができないかと、知恵をしばっての園生活が続いています。

6月からは平常保育が始まりましたが、園行事等は中止や縮小など、見直しを余儀なくされ、時間の短縮や内容（種目）を精選するとともに、工夫しての実施となりました。運動会・遠足・ハロウィーン・芋掘り体験や焼き芋会等々、変更・縮小しての実施となりましたが、縮小しての実施によりプラス面もありました。競技数（内容）が多いとやることも増え、時間を気にしすぎたり、一人ひとりの思いに、丁寧に関わることが難しくなったりするなど、「温かい触れ合い」の機会が少なくなる傾向がありました。しかし、競技（内容）を精選したことで、じっくり関わることで、子どもと保育者の「温かい触れ合い」が増え、充実した運動会になったように感じます。他の行事においても、いつもに比べて先生との「温かい触れ合い」が多く生まれ、コロナ禍でありながらも、行事等の経験を通して、楽しい思い出ができました。行事等の経験を通して確実に成長している子どもたち一人ひとりの姿から、コロナ禍での行事のあり方を見直し、行事や保育の本当

の意味を確認する必要性を痛感するとともに、中止でなく行事に取り組んできたことに、職員一同ほっとしています。

◆「来年の「干支」は「丑」一ののろろでも確実に進もう！」

新型コロナウイルス感染症の拡大から一向に収束への道は見え、12月に入っても全国における感染者数が増大し、専門家からは「第3波、、、と考えられる」と言われています。ウイルスが活発になる寒さと乾燥の冬に向けて、一層の感染防止対策が求められる中で、もうすぐ新しい年を迎えることになります。新しい年は「丑年」ですが、牛の歩みのように、ゆっくりでも前に進める年になってほしいと願っています。

高村光太郎の詩「牛」は「牛はのろろと歩く 牛は野でも山でも道でも川でも 自分の行きたいところへ まっすぐに行く」のろろとさえ行きたいところにまっすぐに進めなかったのが、残り1ヶ月あまりとなった2020年。春先を振り返ると本当にあったことなのかと疑いたくなりますが、光太郎の詩は「ひと足、ひと足、牛は自分の道を味わって行く」という一節があります。のろろであれ、来年は歩いてよかったと思える年にしたいと思います。ご支援ご協力よろしくをお願いします。（10・24・編集手帳参照）

「遠足・楽しかったローラーすべり台」



「おいしかったね！焼き芋」



「たくさんとれました！さつまいも掘り」



「ハロウィーン」

令和3年度一入園児募集中ー

- ◎ 2歳・満3歳・3歳児の入園を受け付けています。（随時受付、随時入園も可）
募集人員 ・ 2歳児10名・満3歳児10名・3歳児10名
年少・年中・年長の入園・転入はいつでもできます。
- ◎ 園見学はいつでもできます。是非遊びにお出かけください。
園庭は開放していますので、遊具等使って自由に遊んでください。
- ◎ 各市における入園申込み受付（4月入園）が10月1日から始まっています。

※連絡・問合せ

住所：桐生市広沢町三丁目4475番地

電話：0277-53-5571

HP：<http://www.jutoku.ed.jp/>

12月(布施)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	火	校内安全点検日 1年生平和学習 3SS・K・S三者面談～4日 推薦・学奨ネット出願(受験生)～14日	中学校期末試験(～12/2) 三者面談(～12/3) 第2期入試願書受付(～12/4) 校内安全点検	「安全点検日」
2	水	県校長会 歳末助け合い募金活動(インターアクトクラブ)～24日		『幼交連交通安全教室』
3	木	2年生修学旅行代替行事～4日		『成道会・数珠くり』(大善寺)
4	金	校内安全点検日 マイトリー基金抛金日 後援会役員会③	マイトリー基金抛金日	入園面接10:30～ 読み聞かせ(西山先生)
5	土	GTEC⑤		開園日
6	日			
7	月	朝礼 授業料納入日 教科主任会⑦ 教育連携⑩	頭髮服装指導	保育参観(ひよこ組) <大雪>
8	火	成道会 日私中高連常任理事会		保育参観(すみれ組)
9	水	教育連携⑩		保育参観(もも組)
10	木	第2回法人役員会(13:30～) 2年生球技大会		保育参観(さくら組) 《保育料納入日》
11	金	1年生球技大会 推薦・学奨出願書類受付期間～18日	校内マラソン大会	保育参観(たけ組) (法人役員会)
12	土		第2期中学入試(適性型)	開園日
13	日			
14	月	LHR(人権教育) 学年主任会⑧ 教育連携⑫		リズム(全)、線(年少)
15	火	出欠統計提出 2学期出欠締切	ミニマナーアップ運動	ボール投げ教室
16	水	担任宛成績提出(13:00) 献血④ 教育連携⑫	医系進学講座	英語(全)、文字・数(年長)
17	木	献血② 制服アフターサービス		体育(全)、文字・数(年中)
18	金	教務宛成績提出(13:00)		
19	土			開園日
20	日			
21	月	LHR 教育連携⑫ 中学生願書・調査書確認～22日		リズム(全)、線(年少) <冬至>
22	火			読み聞かせ(西山先生)
23	水	成績会議(16:00～) 中学生調査書確認・評定合計入力～25日		英語(全)、文字・数(年長)
24	木	終業式 大掃除 学年別一斉指導 入試準備事務	終業式・大掃除	第2学期終業式 桐生市保・認可事務連絡会議
25	金	奨学生審査会② 入試準備事務 歳末助け合い募金納金	補習(12/25～28)	冬休み～1/7まで 預かり保育①
26	土	第37回吹奏楽部定期コンサート		開園日
27	日			
28	月	9/27振替休日		預かり保育② 仕事納め
29	火	職員休暇		年度末特別休暇～31日
30	水	職員休暇		
31	木	職員休暇		<大晦日>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況により今後の予定が変更されることがあります。ご了承ください。



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

[Web] www.jutoku.ed.jp [Mail] office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく